

2026年7月13日

各 位

会 社 名 パ ン チ 工 業 株 式 会 社
住 所 東京都品川区南大井六丁目22番7号
代 表 者 名 代表取締役 社長執行役員 CEO 森久保 哲司
(コード番号：6165 東証スタンダード)
問 合 せ 先 コーポレート・コミュニケーション部長 松田 隼人
TEL. 03-5753-3130

パンチ工業が部品提供する JAXA の再使用ロケット RV-X (小型実験機) 飛行実験の成功に関するお知らせ

パンチ工業株式会社（以下、当社）は、当社が金属部品を提供している、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）が研究開発を進めてきた再使用ロケット実験機 RV-X（以下、RV-X）が、2026年7月11日に JAXA の能代ロケット実験場（秋田県能代市）にて飛行実験を行い、正常に飛翔し、離着陸を行いましたことをお知らせいたします。

RV-X は、将来の基幹ロケットにおいて、打ち上げ後に切り離される1段目を着陸させ再使用化することを目的に研究が行われています。今回は、上空約10メートルまでロケットを上昇させ、15メートルほど水平移動してその後垂直に降下し着陸させる実験を行いました。日本では大型ロケットを着陸させた経験がないため、発射地点から離れた地点に着陸させるための、誘導制御技術を確認するための基礎的な研究です。

当社は RV-X の開発にあたり、ロケット燃料である液体水素などを注入するホースと機体を接続する金属部品「クイックディスコネクト」を提供しています。

当社は、今後さらなる発展が見込まれる航空宇宙産業への取組みを通じて、得られた技術を地球上での既存事業や新規事業に活用し、より社会から必要とされる企業となることを目指してまいります。

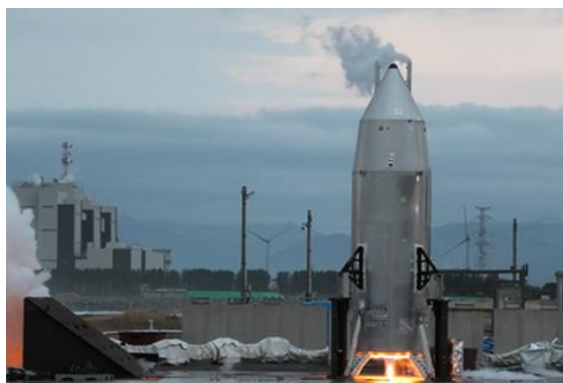
記

1. 再使用ロケット RV-X (小型実験機) について

RV-X は、JAXA が開発を進める「再使用型宇宙輸送システム」の一環として位置づけられる、小型の再使用ロケット実験機の名称です。

ロケットは、人工衛星や探査機などの貨物（ペイロード）を宇宙に運ぶためのもので、機体の大部分は燃料を搭載するタンクで構成されます。そのタンク部分やロケットエンジン部分は、燃料が空になると軽量化のため海上に切り離されます。その切り離された部分を着陸させ再使用することで、打ち上げコストの低減などを図るべく各国で研究が行われてきました。すでにアメリカでは実用化が進んでおり、日本も研究と実験を行っています。

なお、RV-X は再使用型輸送システムに共通的に必要となるシステムレベルの技術研究の第一フェーズと位置付けられており、今後はこの技術を、ドイツ、フランスと共同開発している第二フェーズの実験機「CALLISTO (カリスト)」に引き継ぐ予定です。



再使用ロケット RV-X
(小型実験機)
画像：JAXA 提供

2. 当社が提供する部品について

ロケットに燃料である液体水素や液体酸素を注入するには、地上設備とロケット機体を結合するためにアンビリカル装置が用いられます。当社は、このアンビリカル装置の構成部品のうち、燃料ホースと機体をつなぐクイックディスコネクトという金属部品を提供しています。クイックディスコネクトは、燃焼時には3,000℃を超えるロケットエンジン部分から燃料注入ホースを退避させ、装置を再使用するために重要な部品です。部品の加工は、当社の北上工場（岩手県北上市）と宮古工場（岩手県宮古市）で行いました。燃料注入時などの燃料漏れを防ぐために重要とされる気密性を確保するべく、ホースと機体の接合部の真円度を0.001mm単位で精密に加工しました。また、ホースと機体の接合部が外れ、エンジンの燃焼開始までにホースの退避ができるような機構になっており、マイナス253℃の液体水素などによる超低温の状況下でも結露による氷結の影響を受けず取り外しができ、即時に弁が閉じることで注入口からの燃料漏れを防止します。



当社が加工した金属部品「クイックディスコネクト」
ロケット機体と燃料注入ホースをつなぐ重要な部品

3. 今後の見通し

当社では2016年より、R&D強化を目的として「航空宇宙産業関連への進出」への取組みを重点経営課題の一つに掲げており、航空宇宙関連の部品加工を中心に実績を伸ばしています。ロボット・宇宙技術開発ベンチャーである株式会社ダイモンと技術パートナー契約を締結し、月面探査車「YAOKI」の打ち上げおよび月面での撮影に貢献するなど、様々な産学官連携を行っています。

当社は、従前よりロケット関連部品でJAXAとの取引があり、2023年8月には当社が所有している金属接合技術「P-Bas®」を用いたロケットエンジン部品などの金属部品加工法に関する共同研究契約を締結するなど、当社の高度な金属加工技術は航空宇宙産業の発展に貢献しています。

今後さらなる発展が見込まれる航空宇宙産業への取組みを通じて、得られた技術を地球上での既存事業や新規事業に活用することで、より社会から必要とされる企業となることを目指しています。

2025年5月に策定した当社グループの長期ビジョン「Vision60」では、「脱・金型備品依存」をテーマに掲げ、航空宇宙をはじめとする社会の多様なニーズに貢献するための成長を目指しています。また、2026年5月に策定した3ヵ年の中期経営計画「バリュークリエーション 28」においてはR&Dによる価値創出を重点施策の一つに掲げています。航空宇宙分野も含む新事業分野への取組みを、金型部品、ファクトリーオートメーション（FA）事業に続く第3の柱とすべく、中長期的な育成に取り組んでいます。

【パンチ工業株式会社 会社概要】

社名：パンチ工業株式会社

代表：代表取締役/社長執行役員 森久保 哲司

所在地：東京都品川区南大井6丁目22番7号 大森ベルポートE館5階

上場：東京証券取引所 スタンダード市場（6165）

創業：1975年

売上高：421億円（連結・2026年3月期）

従業員：3,480名（連結・2026年3月末）

URL：<https://www.punch.co.jp/>

公式YouTubeチャンネル：https://www.youtube.com/@punchindustry_official

事業内容：金型部品、自動化装置及びその周辺部品、特注機械部品等の製造・販売

社名に込められた意味：

創業の製品であるプリント基板用穴あけパンチの「パンチ」と、活力にあふれた「パンチ」の効いた会社という意味が込められています。

会社ロゴマークに込められた意味：

ゲンコツマークは「商品である金型用パンチ／ピンと企業としての勢い」、斜線は「稲妻のごとく業界に新風を送らんとする」意気込みを表現しています。



以 上